

## 「学力アップのためのあなたへのメッセージ&ヒント」冊子概要紹介

### 【小学校高学年版】

作成：春日市学校教育研究会・春日市教育委員会

保護者の皆様へ

確かな  
目標  
見通し  
志  
を！

### 育てよう！子どもの「自己学習力」！！

子どもたちにはこれからの社会を生きていく上で不可欠な「自己学習力」(学力)を身につけることが求められます。これを支援するため、標記の初版冊子を作成し活用することとしました。その概要に目を通していただき、お子様の自学を見守っていただくようお願いいたします。なお、短期間で作成したことから、十分でないところがあります。今後、よりよい内容へと改訂を重ねていきたいと考えています。

#### その1

##### 学力はなぜ必要ですか？

- ① 生きる力「確かな学力、豊かな心、健やかな体」を培うためです。生きる力を支えるひとつに「学力」があります。
- ② 将来の進路選択の幅や自分の中にある可能性を掘り起こして、その幅を広げるために学力を高める必要があるからです。

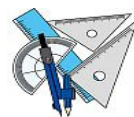
##### 学力を高めるためには、学習の仕方の工夫を！

学習の仕方は、教科に応じてそれぞれ異なる所と同じ所があります。授業で、また家庭学習で、教科に応じた学習の仕方を身につけることが必要です。

#### その2

##### 学習の仕方の紹介①（共通する学習の仕方・心構え）

- 1 「先生への相談」
  - ・自分のよさや工夫しなければならないことに気づくことになります。
- 2 「友だちとの討論や共同作業」
  - ・いろいろな情報を知り、新たな情報をつくり出すことにつながります。
- 3 「ノートの使い方の工夫」
  - ・余白の活用（補足、疑問等の書き込み）は学習内容の理解を助けます。
- 4 「単語カードの活用」
  - ・理解や記憶が進み、学習内容の定着につながります。
- 5 「復習」「予習」
  - ・復習は学びを定着させ、予習は新しい内容の吸収力をつけることにつながります。
- 6 「成績の記録化」
  - ・自分の伸びや課題が見えてきます。
- 7 「学習資料等の仕分け」
  - ・学んだことの整理整頓は、次の学習へ生かしやすいです。



## 学習の仕方の紹介②（国語科）

### 1 読む力を高める

- (1) いろいろな分野の読書
  - 物語、歴史や科学の本、伝記など。
- (2) 音読の習慣化
  - 声に出す読み、繰り返し・すらすら読み、短歌や俳句のリズム読みなど。
- (3) 読みを深める書き込み
  - 重要などころあるいは気に入った文や語句、文、文章に線を引く。
  - 接続語・指示語を枠で囲み、つながりのある文章を矢印でつなぐ。
- (4) 新聞に親しむ
  - 毎日読む（切り抜いて記事を100字以内に要約する）。
- (5) 辞書のフル活用
  - 机の前に置いて手軽に辞書で調べたり、調べた語句の痕跡（ライン、付箋）を残す。

### 2 書く力を高める

- (1) 視写のすすめ
  - 正しく、短時間続けて。速さ、正確さ、集中力などが付いてくる。
- (2) 日記のすすめ
  - 書き出しを会話文や擬音から始める（何かになりきって書く。継続第一です）。
- (3) コーナーのあるノートのすすめ
  - ノートに自分の考えを表現するコーナーを作り、書き込む。
- (4) 文章構成メモのすすめ
  - 序論、本論、結論に分けた構成に気をつけてメモを作る。

### 3 話す力・聞く力を高める

- (1) 主語・述語がはっきりした文章を書く
  - 単語で話さない。接続語を使って内容をつなぐ。
- (2) 手短かに話す
  - 一文を短く、伝えたいことを先に、理由を述べて、要点毎に話すなど。
- (3) 要点に気をつけて聞く
  - 人と話す時やテレビ番組を見る時、「一番言いたいことは何か」に気をつける。

## 学習の仕方の紹介③（社会科）

### 1 身近な事柄に興味・関心を持つ

- (1) 買い物など日常生活の中で店の工夫や努力を見つける。
- (2) 地域の文化財マップを使った探検を通して身近な歴史を探る。
- (3) 街の看板やポスターを通して地域のよさを見つける。

### 2 正しい知識・大事な事柄を覚える

- (1) 地図記号や都道府県名などが言えるようになる。
- (2) 人々の生活と暮らしの様子や世界の国々の名前と位置などが言えるようになる。

(3) 歴史上の人物や出来事などが言えるようになる。

### 3 新聞記事に対する関心を深める

- (1) 社会問題、身近な出来事、エピソード、読者の意見や社説などを読む。
- (2) 読んで感じたこと、学んだこと、納得できること・できないことなどを書く。

### 4 資料をフルに活用する

- (1) グラフや表、写真、絵、地図などを使って、正しく、幅広く調べる。
  - 縦軸の横軸のひとメモリの大きさ、量や変化、特徴などに着目する。
- (2) 二つ以上の資料を使って考えをつくる
  - いろいろな事実・情報を集め、関連づけて考える。

### 5 まとめを楽しむ

- (1) 調べたことを作品などにする。
  - カルタ、すごろく、パンフレット、新聞など。

## 学習の仕方の紹介④（算数科）

### 1 学校での学習プランをつくるために

- (1) いつも心がけておくこと
  - 数字は位をそろえて、ていねいに書く。
  - コンパス、定規など算数道具の使い方に慣れ、いつでも使えるようにしておく。
  - 問題を絵図やテープ図、数直線やグラフなどに表せるようにする。
  - 正方形、面積、角、辺、対角線などの算数用語の意味をしっかりと覚えて使う。
- (2) 学習中に心がけておくこと
  - 計算（最初は正確に、次は速く、繰り返し練習）
  - 作図（正確な作図の習慣）
  - 見積り（予想）（結果の予想を立てる習慣）
  - 説明（数、絵図、用語を使って答えの求め方を説明）

### 2 家庭での学習プランをつくるために

- (1) 家庭学習の時間を定着する
  - 「学年×10分+10分」を目処に毎日続ける。
- (2) 復習で学びを定着する
  - 同じ問題を一人でやってみる。分からないところがあればノートや教科書を見直す。
- (3) 予習で学びを先取りする
  - 次に学習のところ（問題、絵図、式や答え）をノートに写し、『分かるところ』『分からないところ』をメモしておく。
- (4) 算数学力向上プランを作る
  - 自分の算数学力向上プラン（・学校で積み上げること・家庭で積み上げること）を作り、前期や後期の終わりに見直す。

## 学習の仕方の紹介⑤（理科）

### 1 理科学力アップのための科学への親しみ・「やる気」

- 科学の雑誌やテレビ番組を見たり、博物館、科学館、水族館、植物園などを見学する。
- 実物やレプリカ（複製品）、パネル、体験コーナーなどに興味をもつ。
- 科学のパンフレット、メモなどを室内に貼ったり、スクラップブックに納めたりして「見える化」する。

### 2 理科学力アップのための「やり方」

- (1) 実際に試す・確かめる
  - 方法（道具・手順）や結果の予想など筋道を立てながら観察や実験に取り組む。
  - 天体観測や電池を使った実験など、地域での施設や家庭でもできる観察や実験に取り組む。
- (2) 教科書の観察や実験を手がかりに予習・復習をする
  - 観察や実験の流れ・順序が言えるように。  
〔観察や実験の流れ・順序〕

- ①自然の事物・現象への働きかけ（問題の発見につながる）
- ②問題の把握・設定（追究していく問題を明らかにする）
- ③予想や仮説の設定（問題に対する考えを明らかにする）
- ④検証方法の立案（観察や実験の手続きや手段を明らかにする）
- ⑤観察や実験を通して検証（予想や仮説が正しいかどうかを検討し、結果をまとめ、自然のしくみやきまりを見つける）

- 問題の事物・現象と自然のしくみやきまりとを関係付けて言えるように。
- 自然のしくみやきまりと身の回りのできごととを関係付けて言えるように。
- (3) 教科書の「たしかめ」や「問題」を手がかりに予習・復習をする
  - 予習は「たしかめ」や「問題」を先に読んだり取り組んだりして、『分かるところ』『分からないところ』をはっきりさせておく（ノートの余白に書き込む）。
  - 復習は特に『分からないところ』を中心に、繰り返し取り組む。
- (4) インターネットを活用する
  - インターネットで疑問を調べたり、興味を広げたりする。
- (5) 教科書の「1年間のまとめ」を活用する
  - 重要なまとめ、問いかけに着目して予習・復習をする。
- (6) チェック表を作り、自己チェックする
  - 重要な知識（言葉）や説明のチェック表を作り、繰り返し学習内容の理解度をチェックしていく。